

マジェランアイナメ 南インド洋

Patagonian toothfish *Dissostichus eleginoides*



マジェランアイナメ (C) TAIYO A & F CO., LTD.

管理・関係機関

南インド洋漁業協定 (SIOFA)

生物学的特性

- 最大体長・体重：南インド洋では不明、南極海域では 238 cm、130 kg
- 寿命：南インド洋では不明、南極海域では 40～50 歳程度
- 性成熟年齢：南インド洋では不明、南極海域では 6～13 歳
- 産卵期・産卵場：南インド洋では不明、南極海域では 6～9 月に南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 索餌期・索餌場：南インド洋では不明、南極海域では海面付近 (幼魚期)、南極大陸を取り囲んだ海域の陸棚の浅瀬～陸棚斜面等
- 食性：南インド洋では不明、南極海域では幼魚期にオキアミ類、成魚期に魚類、イカ類、甲殻類
- 捕食者：南インド洋では不明、南極海域では海産哺乳類

利用・用途

冷凍切身、みそ漬け等の加工品

漁業の特徴

南インド洋におけるマジェランアイナメ漁業は、SIOFA 条約水域の南端に位置する Del Cano Rise 海域及び South of the West Indian Ridge 海域で 2003 年から日本・韓国・フランス (海外領土)・スペインにより底はえ縄船で操業が行われてきた。当該海域におけるマジェランアイナメ漁場は大きくないため、南極海を主漁場とする底はえ縄船が航行の途中で一時的に利用する漁場として主に使われている。

漁獲の動向

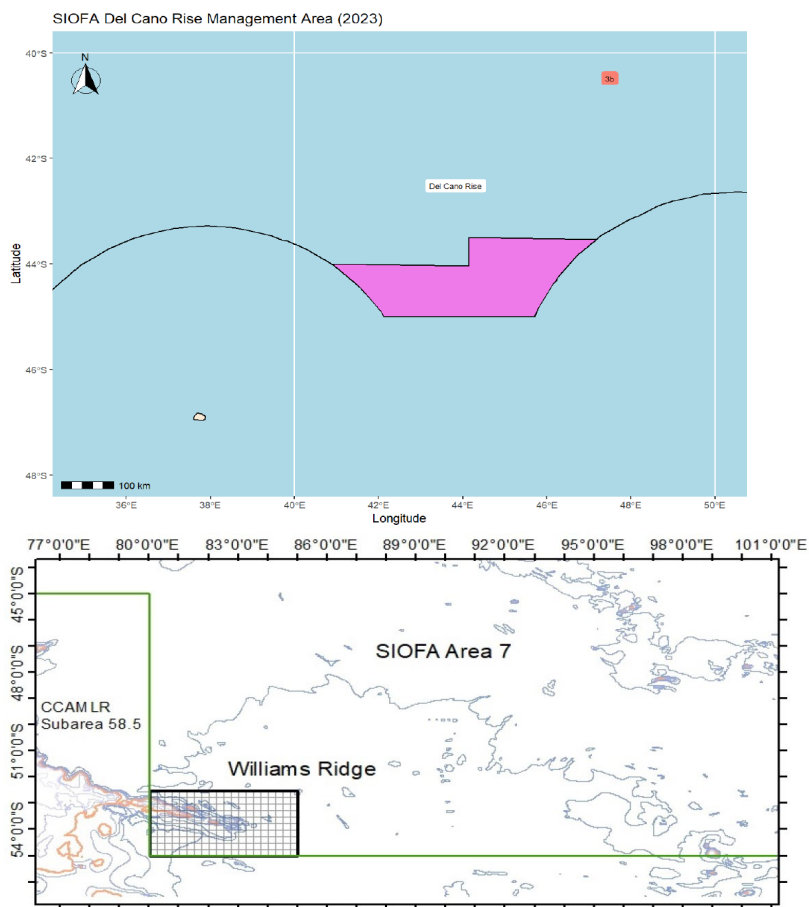
年によって漁獲量のばらつきがあるものの、2016 年までは平均で 90 トン程度が漁獲されていた。2017 年及び 2018 年にスペイン船がマジェランアイナメをこれまでの平均から大幅に超えて漁獲したこと、さらに 2020 年に底魚資源管理措置で合意された管理区域外に操業が拡大したことに強い懸念が示されている。
日本の漁船は 2004～2010 年、2013 年、2017 年に操業を行い、年間漁獲量は 4～72 トンであった。SIOFA では、EU・オーストラリア等いくつかの加盟国は操業隻数が少ない場合に漁獲等の公表が国内法により制限されている。そのため、2025 年 10 月時点で SIOFA 水域におけるマジェランアイナメの正確な漁獲量は公表されていない。

資源状態

2020 年の第 2 回 SIOFA 資源・生態リスク評価作業部会 (SERAWG2) 及び第 5 回科学委員会において、Del Cano Rise 海域におけるマジェランアイナメ資源量の暫定的な資源解析の結果、2018~2019 年の資源状況が共通して悪化していることが示唆された。Del Cano Rise 海域以外の資源状態については、現時点でまだ資源水準を判断できる評価が実施されていない。SIOFA 海域におけるマジェランアイナメの合意された推定資源量は存在せず、漁獲情報等も不足しているため、資源水準、資源動向ともに不明。

管理方策

2017 年及び 2018 年の大量漁獲に対する強い懸念を動機として、2019 年の第 6 回締約国会議においてマジェランアイナメに関する管理措置として、Del Cano Rise 海域と William's Ridge 海域における総漁獲可能量 (Total Allowable Catch : TAC) として、それぞれ商業漁業 TAC (2025 年は 44 トン) と調査 TAC (140 トン、商業操業不可) が設定された。SIOFA において、底魚漁業全体への管理措置として、漁獲量・努力量を過去の平均レベルに制限し、既存漁場外での操業を行わないこと、及び科学オブザーバーの 100%乗船が義務付けられている。また、2023 年の第 10 回締約国会議において Del Cano Rise 海域の管理海域を北東に延長するための管理措置の更新が行われ、今後 Del Cano Rise と William's Ridge の外側に新しい管理区域 (South Indian Ridge) を設定することが検討されている。また、漁獲戦略及び管理基準値の策定に向けて議論が進められている。



南インド洋 SIOFA 水域におけるマジェランアイナメ漁場。
 上図：Del Cano Rise (ピンク) と South Indian Ridge (赤枠)、下図：Williams's Ridge (黒格子)。

マジェランアイナメ（南インド洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	EU・オーストラリア等いくつかの加盟国は創業席数が少ない場合に漁獲等の公表が国内法により制限されているため、SIOFAに提出されるナショナルレポートにも魚種組成でしか報告されておらず、SIOFA水域における総漁獲量値も非公表となっている。
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0トン 最近年：操業なし 平均：0トン（2020～2024年） 注：2018年以降はSIOFA海域でマジェランアイナメ操業は行われていない
資源評価の方法	Del Cano Rise 海域のみ、 1) Depletion analysis、2) CPUE 標準化、3) CMSY モデル、4) JABBA モデルによる暫定的な資源評価を実施している。 その他の海域については資源水準を判断できる資源評価を実施していない。
資源の状態 (資源評価結果)	Del Cano Rise 海域において4種類の方法で解析した結果、2018～2019年の資源状況が共通して悪化していることが示唆された。 Del Cano Rise 海域以外の資源状態については、現時点でまだ資源水準を判断できる評価が実施されていない。 2024年11月時点で、SIOFA 海域におけるマジェランアイナメの合意された推定資源量は存在せず、漁獲情報等も不足しているため、資源水準、資源動向ともに不明。
管理目標	検討中
管理措置	SIOFA 保存管理措置によって下記が規定されている。 【SIOFA CMM-01(2025)】 ・漁獲量・努力量を過去の平均レベル以下に制限 ・既存漁場外の操業を禁止 ・科学オブザーバーの100%乗船 【SIOFA CMM-15(2025)】 1) Del Cano Rise 海域 漁獲量上限 44 トン（商業漁業 TAC） 2) William's Ridge 海域 漁獲量上限 140 トン（調査 TAC、商業操業不可）
管理機関・関係機関	SIOFA
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	未定